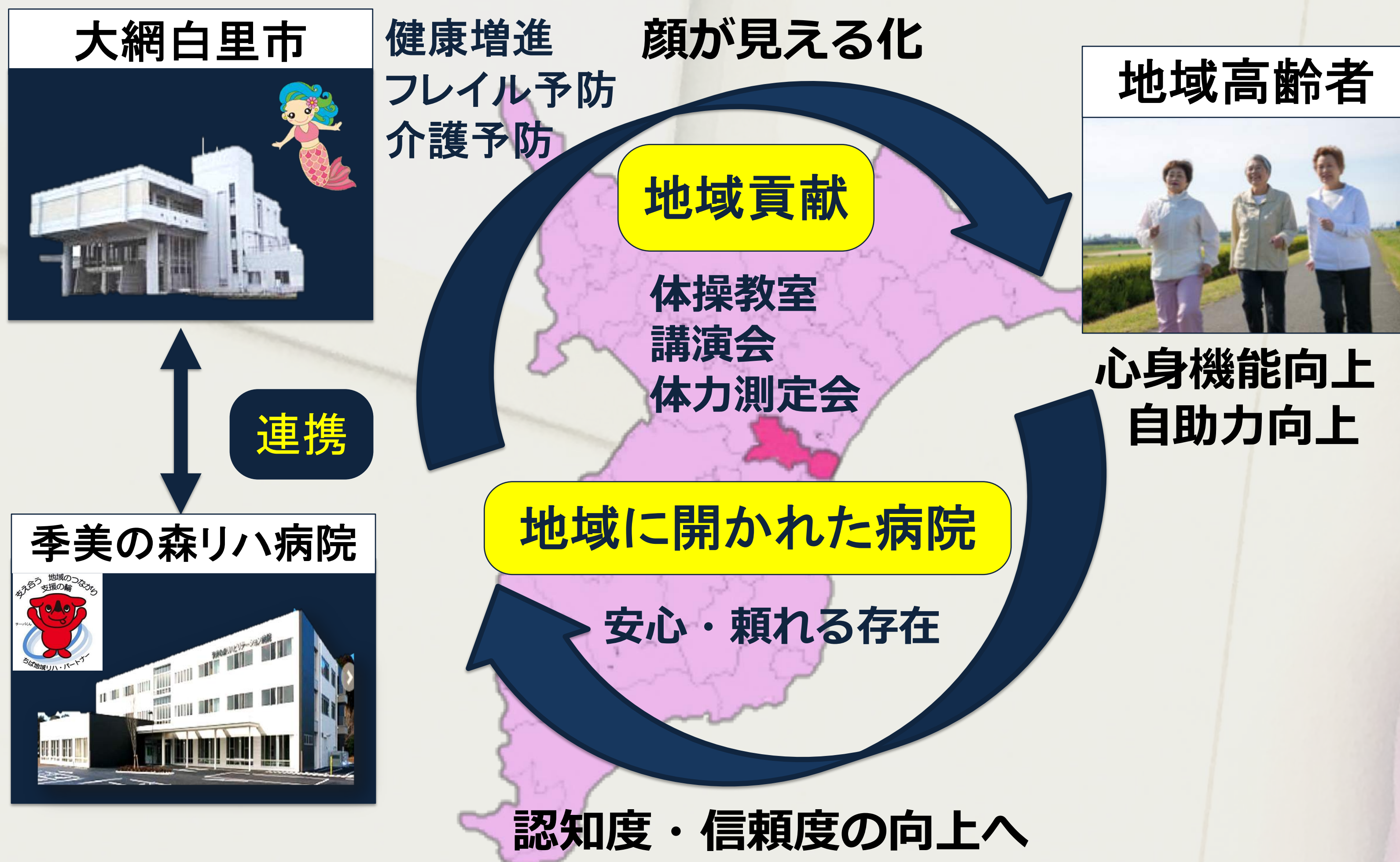


阿部祐樹^{1,2)}、安川知里^{1,3)}、石井慎二²⁾、山崎虹太²⁾

1) 医療法人社団 鎮誠会 法人本部 業務部 地域リハビリ課
 2) 医療法人社団 鎮誠会 季美の森リハビリテーション病院 リハビリテーション科
 3) 医療法人社団 鎮誠会 東金整形外科

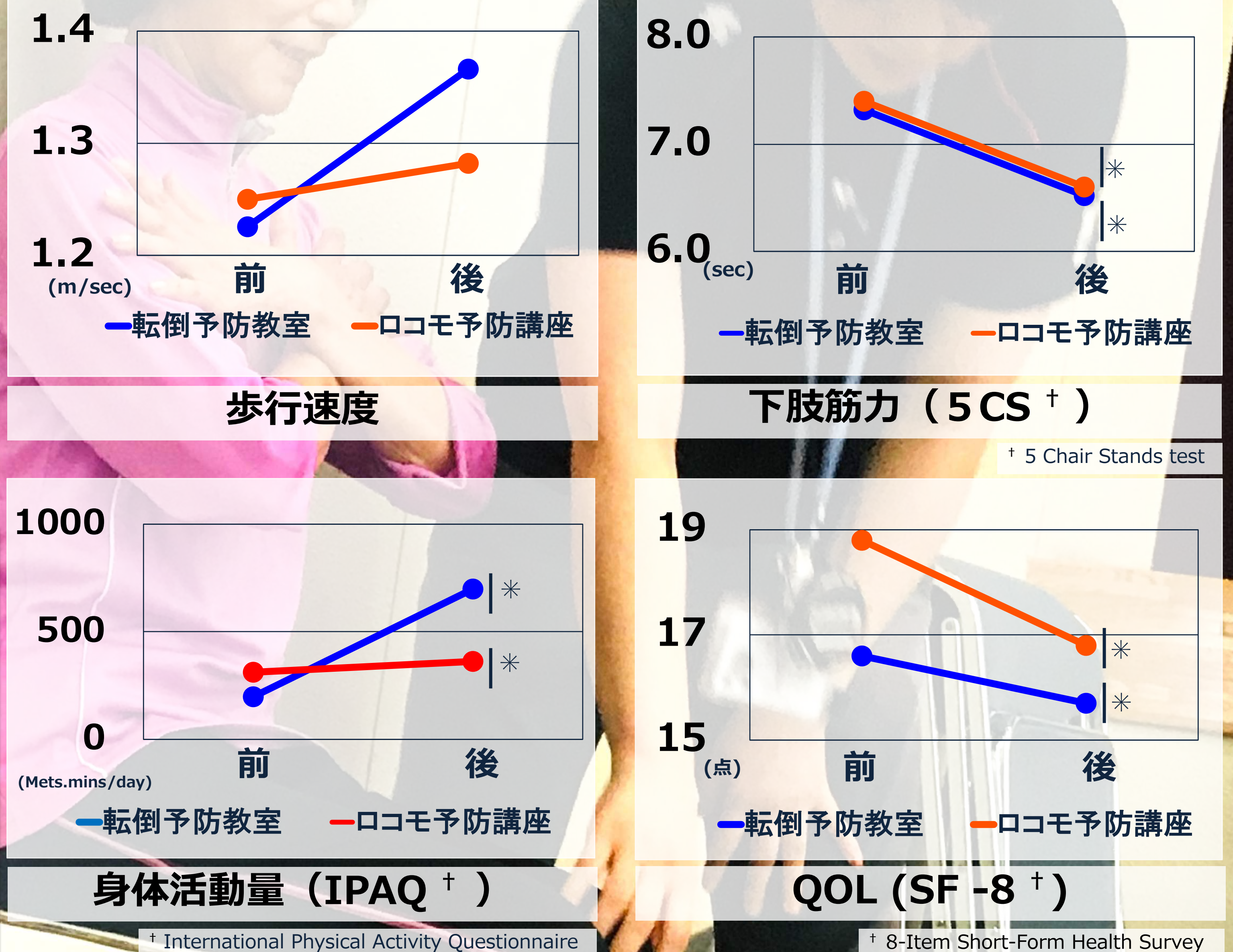
'18 大網白里市と連携し一般介護予防事業を展開



結果 (初回と最終回の比較*)

	転倒予防クラブ n=18	ロコモ予防講座 n=20	全体 n=38
年齢, 歳	72.5 ± 3.8	75.0 ± 7.1	73.9 ± 5.5
性別, 女性, n (%)	13 (72.2)	16 (80.0)	29 (76.0)
身長, cm	153.4 ± 5.0	151.0 ± 6.7	152.3 ± 5.9
BMI, kg/m ²	23.2 ± 4.1	21.0 ± 2.0	22.0 ± 3.0

* 現在 2クール目が進行中のため 1クール分のみのデータを解析 (二元配置分散分析)



下肢筋力、身体活動量、QOL が有意に向上 (*p<0.05)
 2つの事業間において向上度に有意差は認めなかった

転倒予防クラブ

期間: 3ヶ月間、毎週1回開催
 (1クール目: 5月~8月)
 (2クール目: 12月~3月)

場所: やまべの郷、いずみの郷

人数: 1クール20名

内容: 体操、講演、体力測定

時間: 120分/回

理学療法士の指導のもと週1回の頻度で定期的に運動を実施

ロコモ予防講座

期間: 3ヶ月間、2回のみ開催
 (1クール目: 5月と8月)
 (2クール目: 11月と2月)

場所: 保健センター

人数: 1クール20名

内容: ホームエクササイズ指導
 体力測定、講演

時間: 120分/回

週3回以上のホームエクササイズを実施 (実施記録を確認)

介入形式は異なるものの、どちらも一定の成果が得られた。2つの事業形態で差はなかったが、ロコモ予防講座への参加者も非常に積極的で、週3回以上の運動ができていた者が多かったことが一つの要因と考える。回数が少なくとも、体力測定にて自身の身体状況を把握し、適切な運動ができれば、頻回に理学療法士が関わった場合と遜色ない効果が得られる可能性がある (検証継続中)。

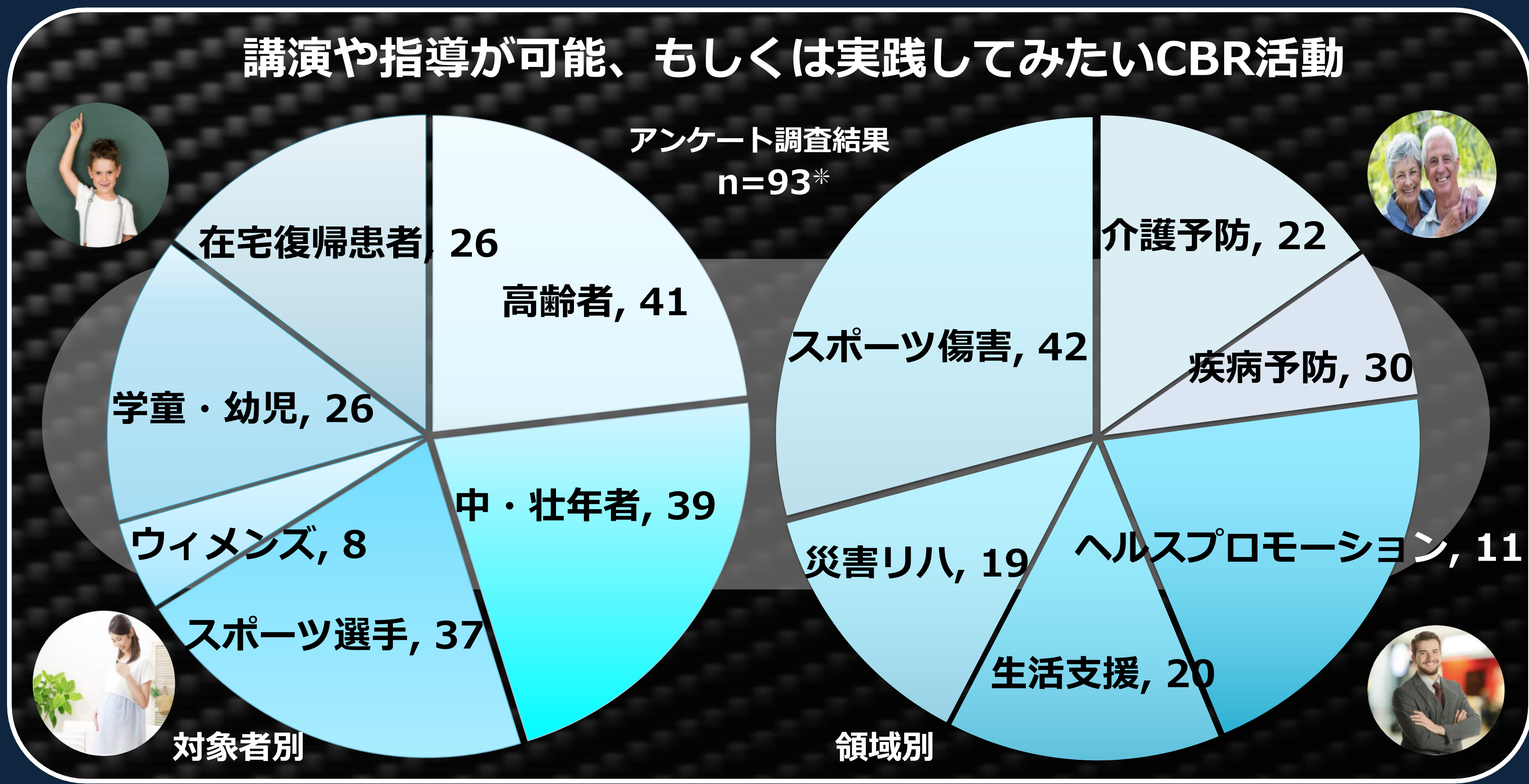
Community Based Rehabilitation, CBR活動体制の現状

業務部 地域リハビリ課 PT2名が主に活動
 実施期間中は週1回の頻度でPT2名を派遣
 体力測定実施時は病院等より3名を追加派遣

臨床業務と兼務のため人員確保に課題

次年度事業はロコモ予防講座に類似した形式のものが主となる

CBR活動推進のための活動体制の構築



法人独自のCBR人材バンクを構築

- 7領域 (30項目) に分類
- ① フレイル・介護予防
 - ② 退院患者支援
 - ③ 疾病予防
 - ④ 産業ヘルス
 - ⑤ ウィメンズヘルス
 - ⑥ 幼児・学童
 - ⑦ スポーツ傷害
- データ化し、各事業所で共有

より専門性の高いスタッフを医療圏域も跨いで派遣することが可能



スタッフ派遣の実例

